

## 多職種連携のためのアカデミックリテラシー

|              |  |        |          |
|--------------|--|--------|----------|
| 責任者・コーディネーター | 人間科学科哲学分野 遠藤 寿一 教授   |        |          |
| 担当講座・学科(分野)  | 人間科学科哲学分野、人間科学科心理学・行動科学分野、人間科学科法学分野、情報科学科数学分野・医用工学分野、物理学科、化学科、生物学科、外国語学科英語分野、人間科学科体育学分野、緩和医療学科、附属図書館 |        |          |
| 対象学年         | 1  | 区分・時間数 | 演習 30 時間 |
| 期 間          | 通期   |        |          |
| 単 位 数        | 2 単位   |        |          |

### ・学習方針（講義概要等）

現代の社会では、医療技術の複雑化に対応し、また超高齢化に伴う全人的医療ケアを提供するために、専門職間の連携・チーム医療の重要性が増している。こうした理由から近年、医療系分野を中心に多職種（専門職）連携教育（IPE:Interprofessional Education）が広がりを見せ、複数の専門職が集い、連携・協働の質、ケアの質を向上させるために、共に学び、互いに他から学び合い、お互いについて学ぶこと、が重視されるようになってきた。

本科目は、このようなチーム医療の基礎を築く IPE の入門コースであり、3 学年における「チーム医療リテラシー」および 4 学年に予定されている 4 学部合同セミナーに連結するものである。そのため、本科目の目標は、こうした学びに必要な問題解決能力の育成とアカデミックリテラシー（大学で学ぶための諸能力）の修得に置かれる。具体的には、4 学部合同の少人数グループを学びの単位とし、アクティブラーニングの要素を取り入れながら問題解決型学習を行うとともに、問題解決にとって有用なアカデミックスキルを修得するコースを設定し、次の二種類の能力の基盤づくりを行なう。一つは、これからの専門職に求められる能力（医療人としての自覚、他職種の役割理解・尊重、チームワーク、役割と責任、課題を見いだし解決に導くための協働と自己主導型学習）、もう一つは、専門知識を修得し、研究能力を身につけていくために必要な一般的学習能力（論理的思考、論理的文章作成、コミュニケーション・スキル、プレゼンテーション・スキル、情報検索スキル）である。

本科目の目標と内容・形態の対応関係は以下ようになる。（1）専門職に求められる問題解決能力の養成については、まず医療分野等に関するテーマについて WS（ワークショップ）形式の PBL（プロジェクト型学習）を実施し、KJ 法・二次元展開法を用いた課題解決のためのグループ討議、ポスター発表を行う。この PBL-WS では、教養教育センター教員全員がチューターとして学生をサポートする。次いで、iPEG（Interprofessional Education Game）を用いて、様々な医療専門職の役割や責任についての理解を深め、その後、コンセンサスワークを通じて、チームで考え、活動することの重要性を学ぶ。（2）一般的学習能力の養成については、考える技術（クリティカルシンキング）、書く技術（ロジカルライティング）および入門レベルの論理学のプリントを使用して学習を行い、ディベートでは、これらの知識を踏まえてプレゼンテーション能力を養う。また図書館の施設や検索ツールを使用した図書館演習と文献検索演習を行なう。

（1）は（2）の学びの必要性を動機づけ、また（2）はたんなる座学ではなく（1）で形成された協働の姿勢に基づいて実施される。つまり、本科目の全プロセスは有機的に関連している。したがって、授業の際は（1）と（2）で学ぶことの結びつきを意識しながら、参加してもらいたい。

・教育成果（アウトカム）

図書館演習と文献検索演習によって、適切かつ正確な情報を検索・収集するスキルが身につく、自分の考えや表現に説得力と奥行きを与えることができるようになる。

PBL-WS、iPEG、コンセンサスワーをグループで行なうことで、医療人としての意識が高まり、他職種の役割や責任および多職種を目指す人の考え方を理解し、尊重する態度が身につく。また、課題解決に向けたチームワークの重要性の意識、各自の役割に対する責任感が培われ、チームに貢献するためには、自己主導型学習が大切であるという認識も形成される。

考える技術（クリティカルシンキング）、書く技術（ロジカルライティング）および論理学の初歩を学び、論理的な考え方や論理的な表現方法の基本を習得し、それらをディベートに応用することで、他者の発言や文章を統合的に再構成して理解したり、自分の考えを整理して分かりやすく伝えることができるようになる。またこれによって、適切な質疑応答を含むコミュニケーションやプレゼンテーションの能力が高められる。

以上によって、プロとしての意識が高まるとともに、医療に関する問題を解決するための総合的な力が養われる。（ディプロマポリシー：5,6,8）

・到達目標（SBO）

1. 発言（文章）に含まれる議論の構造を読み取り、隠れた前提を明示して、根拠の妥当性を批判的に検討することができる。（41、58）
2. 主張・根拠・結論を備えた文章作成ができる。（41、60）
3. ディベート：1・2を踏まえたプレゼンテーションができる。（60）
4. 論理的思考入門：論証のタイプ（演繹・推測〔帰納法や仮説演繹法など〕）が判別でき、基本的論理関係（逆・裏・対偶・必要条件と十分条件など）を説明できる。
5. 必要な情報を図書館やインターネットを利用して収集できる。（58、64）
6. 調べた情報に根拠づけができる。（59、64）
7. KJ法・二次元展開を使用して問題点を抽出・整理し、解決策を考え出して、それらを分かりやすくプレゼンテーションすることができる。（45、46、47、48、49、60）
8. 医・歯・薬・看護学部それぞれの職種の役割・責任を理解し、互いの立場を尊重することができる。（4、45、46、47、48、49）
9. チームで考え、活動することの重要性を説明できる。（4、56、64）

- ・講義日程
- （矢）東 201 2-A 講義室、（矢）西 101 1-A 講義室、（矢）西 105 1-E 講義室、  
 （矢）東 101 1-A 講義室、（矢）東 204 2-C 講義室、（矢）東 206 2-D 講義室、  
 （矢）東 207 2-E 講義室、（矢）東 203 マルチメディア教室、（矢）大堀記念講堂

【演習】

| 月日   | 曜日 | 時限 | 講座・分野                 | 担当教員                        | 講義内容/到達目標   |
|------|----|----|-----------------------|-----------------------------|---|
| 4/12 | 金  | 2  | 哲学分野<br>法学分野<br>附属図書館 | 遠藤 寿一 教授<br>廣瀬 清英 講師<br>司 書 | 図書館演習<br>1. 図書館を有効に利用して、情報を収集し、与えられた条件に相応しい書籍を探し出すことができる。 |
| 4/15 | 月  | 1  | 哲学分野                  | 遠藤 寿一 教授                    | 多職種ガイダンス<br>1. 多職種連携と本講義の関係を理解し、説明できる。                    |

|      |   |   |  |  |  |
|------|---|---|--|--|--|
| 4/19 | 金 | 3 | 哲学分野<br>哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野<br>数学分野<br>医用工学分野<br>物理学科<br>物理学科<br>物理学科<br>化学科<br>化学科<br>化学科<br>生物学科<br>生物学科<br>英語分野<br>英語分野<br>体育学分野<br>数学分野<br>英語分野<br>生物学科<br>英語分野<br>生物学科 | 遠藤 寿一 教授<br>三浦 康宏 助教<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師<br>江尻 正一 教授<br>高橋 史朗 教授<br>佐藤 英一 教授<br>小松 真 講師<br>小田 泰行 助教<br>寒河江 康朗 助教<br>中島 理 教授<br>東尾 浩典 講師<br>岩渕 玲子 助教<br>吉田 潤 助教<br>松政 正俊 教授<br>三枝 聖 講師<br>ジェイムズ ホップス 教授<br>柳谷 千枝子 助教<br>小山 薫 准教授<br>長谷川 大 助教<br>大沼 仁美 助教<br>阿部 博和 助教<br>レヴィン小倉 ジョナサン 助教<br>内藤 雪枝 助教 | ワークショップ①<br>PBL オリエンテーション（記念講堂）と<br>KJ 法による討議（SGL）<br>1.問題解決型学習の意義を説明できる。<br>2.KJ 法を用いて問題点の抽出ができる。 |
| 4/19 | 金 | 4 | 哲学分野<br>哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野<br>数学分野<br>医用工学分野<br>物理学科<br>物理学科<br>物理学科<br>化学科<br>化学科<br>化学科<br>生物学科<br>生物学科<br>英語分野<br>英語分野<br>体育学分野<br>数学分野<br>英語分野<br>生物学科<br>英語分野<br>生物学科 | 遠藤 寿一 教授<br>三浦 康宏 助教<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師<br>江尻 正一 教授<br>高橋 史朗 教授<br>佐藤 英一 教授<br>小松 真 講師<br>小田 泰行 助教<br>寒河江 康朗 助教<br>中島 理 教授<br>東尾 浩典 講師<br>岩渕 玲子 助教<br>吉田 潤 助教<br>松政 正俊 教授<br>三枝 聖 講師<br>ジェイムズ ホップス 教授<br>柳谷 千枝子 助教<br>小山 薫 准教授<br>長谷川 大 助教<br>大沼 仁美 助教<br>阿部 博和 助教<br>レヴィン小倉 ジョナサン 助教<br>内藤 雪枝 助教 | ワークショップ②<br>二次元展開法による討議（SGL）<br>1.二次元展開法を用いて問題点を整理できる。   |

|      |   |   |   |  |  |
|------|---|---|---|--|--|
| 4/26 | 金 | 3 | 哲学分野<br>哲学分野<br>心理学:行動科学分野<br>心理学:行動科学分野<br>法学分野<br>数学分野<br>医用工学分野<br>物理学科<br>物理学科<br>物理学科<br>物理学科<br>化学科<br>化学科<br>化学科<br>化学科<br>生物学科<br>生物学科<br>英語分野<br>英語分野<br>体育学分野<br>数学分野<br>英語分野<br>生物学科<br>英語分野<br>生物学科 | 遠藤 寿一 教授<br>三浦 康宏 助教<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師<br>江尻 正一 教授<br>高橋 史朗 教授<br>佐藤 英一 教授<br>小松 真 講師<br>小田 泰行 助教<br>寒河江 康朗 助教<br>中島 理 教授<br>東尾 浩典 講師<br>岩渕 玲子 助教<br>吉田 潤 助教<br>松政 正俊 教授<br>三枝 聖 講師<br>ジェイムズ ホップス 教授<br>柳谷 千枝子 助教<br>小山 薫 准教授<br>長谷川 大 助教<br>大沼 仁美 助教<br>阿部 博和 助教<br>レヴィン小倉 ジョナサン 助教<br>内藤 雪枝 助教 | ワークショップ③<br>PBL オリエンテーション（記念講堂）と<br>討議（SGL）<br>1.問題点の解決策を提示することができる。               |
| 4/26 | 金 | 4 | 哲学分野<br>哲学分野<br>心理学:行動科学分野<br>心理学:行動科学分野<br>法学分野<br>数学分野<br>医用工学分野<br>物理学科<br>物理学科<br>物理学科<br>物理学科<br>化学科<br>化学科<br>化学科<br>化学科<br>生物学科<br>生物学科<br>英語分野<br>英語分野<br>体育学分野<br>数学分野<br>英語分野<br>生物学科<br>英語分野<br>生物学科 | 遠藤 寿一 教授<br>三浦 康宏 助教<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師<br>江尻 正一 教授<br>高橋 史朗 教授<br>佐藤 英一 教授<br>小松 真 講師<br>小田 泰行 助教<br>寒河江 康朗 助教<br>中島 理 教授<br>東尾 浩典 講師<br>岩渕 玲子 助教<br>吉田 潤 助教<br>松政 正俊 教授<br>三枝 聖 講師<br>ジェイムズ ホップス 教授<br>柳谷 千枝子 助教<br>小山 薫 准教授<br>長谷川 大 助教<br>大沼 仁美 助教<br>阿部 博和 助教<br>レヴィン小倉 ジョナサン 助教<br>内藤 雪枝 助教 | ワークショップ④<br>ポスター作成・プレゼン準備<br>1.分かりやすいプロダクトを作成することができる。<br>2.説明すべき内容を簡潔にまとめることができる。 |

|      |   |   |   |  |  |
|------|---|---|---|--|--|
| 5/10 | 金 | 3 | 哲学分野<br>心理学行動科学分野<br>心理学行動科学分野<br>法学分野<br>数学分野<br>医用工学分野<br>物理学科<br>物理学科<br>物理学科<br>化学科<br>化学科<br>化学科<br>生物学科<br>生物学科<br>英語分野<br>英語分野<br>体育学分野<br>数学分野<br>英語分野<br>生物学科<br>英語分野<br>生物学科                                  | 遠藤 寿一 教授<br>三浦 康宏 助教<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師<br>江尻 正一 教授<br>高橋 史朗 教授<br>佐藤 英一 教授<br>小松 真 講師<br>小田 泰行 助教<br>寒河江 康朗 助教<br>中島 理 教授<br>東尾 浩典 講師<br>岩渕 玲子 助教<br>吉田 潤 助教<br>松政 正俊 教授<br>三枝 聖 講師<br>ジェイムズ ホップス 教授<br>柳谷 千枝子 助教<br>小山 薫 准教授<br>長谷川 大 助教<br>大沼 仁美 助教<br>阿部 博和 助教<br>レヴィン小倉 ジョナサン 助教<br>内藤 雪枝 助教                           | ワークショップ⑤<br>ポスター発表<br>1. 討議の成果をわかりやすく説明することができる。<br>2. 質疑に適切に応答することができる。           |
| 5/10 | 金 | 4 | 哲学分野<br>文学分野<br>哲学分野<br>心理学行動科学分野<br>心理学行動科学分野<br>法学分野<br>数学分野<br>医用工学分野<br>物理学科<br>物理学科<br>物理学科<br>化学科<br>化学科<br>化学科<br>化学科<br>生物学科<br>生物学科<br>英語分野<br>英語分野<br>体育学分野<br>数学分野<br>英語分野<br>生物学科<br>英語分野<br>生物学科<br>緩和医療学科 | 遠藤 寿一 教授<br>平林 香織 教授<br>三浦 康宏 助教<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師<br>江尻 正一 教授<br>高橋 史朗 教授<br>佐藤 英一 教授<br>小松 真 講師<br>小田 泰行 助教<br>寒河江 康朗 助教<br>中島 理 教授<br>東尾 浩典 講師<br>岩渕 玲子 助教<br>吉田 潤 助教<br>松政 正俊 教授<br>三枝 聖 講師<br>ジェイムズ ホップス 教授<br>柳谷 千枝子 助教<br>小山 薫 准教授<br>長谷川 大 助教<br>大沼 仁美 助教<br>阿部 博和 助教<br>レヴィン小倉 ジョナサン 助教<br>内藤 雪枝 助教<br>木村 祐輔 特任教授 | ワークショップ⑥<br>全体講義<br>1. 多職種連携の事例を学び、その課題を説明できる。<br>2. 各自の作業をふりかえり、今後の課題を検証することができる。 |

|      |   |   |   |   |  |
|------|---|---|---|---|--|
| 5/17 | 金 | 3 | 哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野          | 遠藤 寿一 教授<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師      | アカデミックリテラシーガイダンス<br>1. チームで考え、活動することの重要性を説明することができる。<br>2. 多職種連携が重視されるようになった歴史的・社会的な背景を理解し、その意義を説明すること |
| 5/31 | 金 | 3 | 哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野          | 遠藤 寿一 教授<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師      | コンセンサスワーク<br>1. チームで考え、活動することの重要性を説明することができる。  |
| 6/7  | 金 | 3 | 哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野          | 遠藤 寿一 教授<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師      | iPEG<br>1. 多職種連携が重視されるようになった歴史的・社会的な背景を理解し、その意義を説明することができる。<br>2. 多様な医療専門職の役割と責任を理解し、尊重することができる。       |
| 6/14 | 金 | 3 | 哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野          | 遠藤 寿一 教授<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師      | 考える技術<br>1. 発言（文章）に含まれる議論の構造、隠れた前提、根拠を意識し、批判的に検討することができる。  |
| 6/24 | 月 | 4 | 哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野<br>附属図書館 | 遠藤 寿一 教授<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師<br>司 | 文献検索演習<br>1. 必要かつ適切な医療情報を図書館やインターネットを活用して収集することができる。   |
| 6/28 | 金 | 4 | 哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野          | 遠藤 寿一 教授<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師      | 書く技術 1<br>1. 論理的な文章とは何かを説明できる。<br>2. 主張・根拠・結論を備えた論理的文章を作成することができる。                                     |
| 7/5  | 金 | 4 | 哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野          | 遠藤 寿一 教授<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師      | 書く技術 2<br>1. 主張・根拠・結論を備えた論理的文章を作成することができる。   |
| 7/8  | 月 | 1 | 哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野          | 遠藤 寿一 教授<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師      | ディベート 1<br>1. ディベートとは何か（意義・方法）を説明できる。  |
| 7/12 | 金 | 3 | 哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野          | 遠藤 寿一 教授<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師      | ディベート 2<br>1. 与えられた立場を肯定する理由を案出し、根拠づける資料を収集することができる。<br>2. 与えられた立場を否定する対論者の理由を想定し、反論を用意することができる。       |

|      |   |   |  |  |   |
|------|---|---|--|--|---|
| 7/12 | 金 | 4 | 哲学分野<br>心理学・行動科学分野<br>心理学・行動科学分野<br>法学分野 | 遠藤 寿一 教授<br>相澤 文恵 教授<br>藤澤 美穂 講師<br>廣瀬 清英 講師 | ディベート 3<br>1.自分たちの主張と根拠を分かりやすく表現することができる。<br>2.相手の議論の構造、隠れた前提、根拠を批判的に吟味して、反論を組み立てることができる。 |
| 9/4  | 水 | 4 | 哲学分野                                     | 遠藤 寿一 教授                                     | 論理的思考入門 1<br>1.論証のタイプを判別し、基本的論理関係を説明することができる。   |
| 9/6  | 金 | 4 | 哲学分野                                     | 遠藤 寿一 教授                                     | 論理的思考入門 2<br>1.科学的思考の基本となる推論のタイプを判別することができる。  |

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

|   | 書籍名           | 著者名         | 発行所    | 発行年  |
|---|---------------|-------------|--------|------|
| 教 | スタディ・ナビゲーション  | 岩手医大・人間科学科編 | 人間科学科  | 2019 |
| 参 | 大人のための国語ゼミ    | 野矢茂樹        | 山川出版   | 2017 |
| 参 | 考える・まとめる・表現する | 大庭コティさち子    | NTT 出版 | 2011 |
| 参 | 理科系の作文技術      | 木下是雄        | 中央公論   | 1981 |

・成績評価方法

|   |
|---|
| <p>ワークショップ：グループ討議・活動への参加態度（30%）をチューターが総合的に評価する。<br/>図書館演習・文献検索・コンセンサスワーク・iPEG・考える技術・書く技術・ディベート：司書および担当教員が、授業の聴講姿勢（30%）・授業内容の把握（20%）・課題への取り組み（20%）を、提出課題や「ふりかえりワーク」等により評価する。</p> |
|---|

・特記事項・その他

|   |
|---|
| <p>PBL-WS では各グループの討議や作業について、適宜チューターがアドバイスをする。また、PL（全体講義）において講評を行う。iPEG、コンセンサスワーク、ディベートでは、指導教員が各グループの作業について適宜アドバイスし、授業終了時に講評を行う。また書く技術では、作成したレポート作成作業について、指導教員が適宜アドバイス等を行う。<br/>論理的思考入門では、確認テストを行い、誤答率の高い問題を重点的に解説する。<br/>なお、教科書（スタディ・ナビゲーション）と各回配布される資料を用いて、事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分とする。</p> |
|---|

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称        | 台数 | 使用目的 |
|------|-----------------|----|------|
|      | 登録済の機器・器具はありません |    |      |